

# 木密地域不燃化10年プロジェクト

～特定整備路線の整備をすすめています～



## 木密地域不燃化 10年プロジェクト

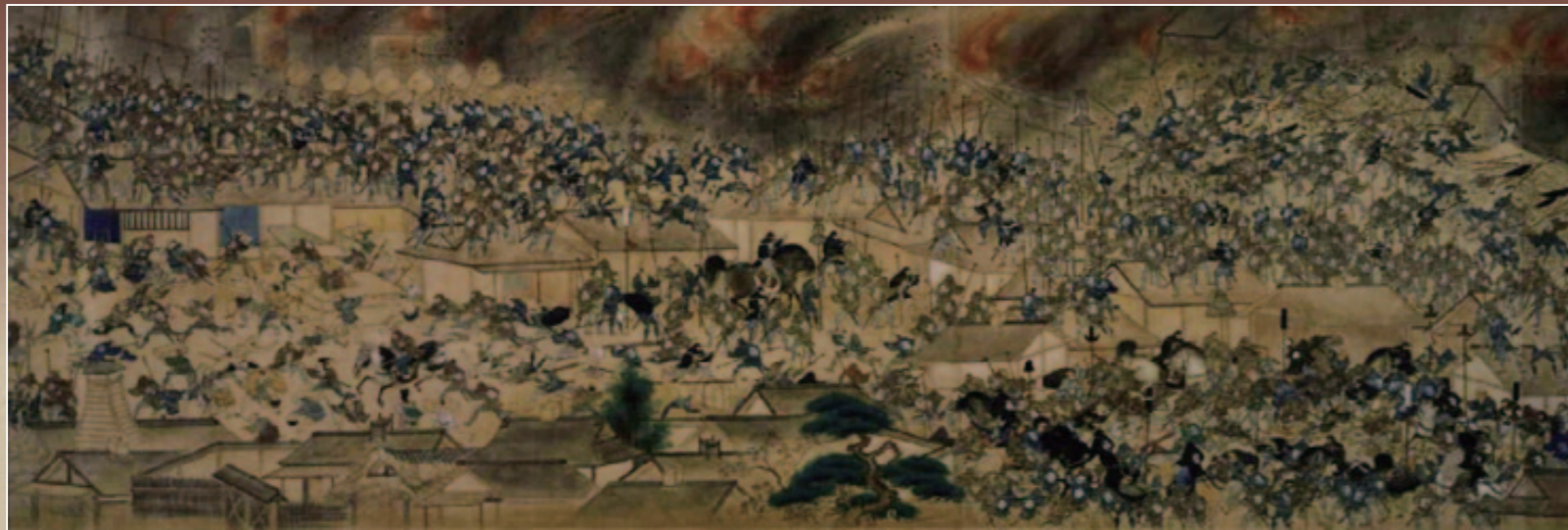
都では、震災時に特に甚大な被害が想定される木密地域(木造住宅密集地域)約7,000haを、2020年度までに燃え広がらない・燃えないまちにすることを目指しています。

このプロジェクトは、市街地の不燃化を促進する「不燃化特区」とともに、延焼遮断や避難、救援など防災性の向上に有効な都市計画道路28区間・約26kmを「特定整備路線」に選定し、整備を進めています。

現在、12区間で事業に着手しており、特定整備路線の用地取得に伴い、移転が必要となる関係権利者の方々に対し、生活再建への支援にも取り組みながら、2020年度までの事業完成を目指しています。

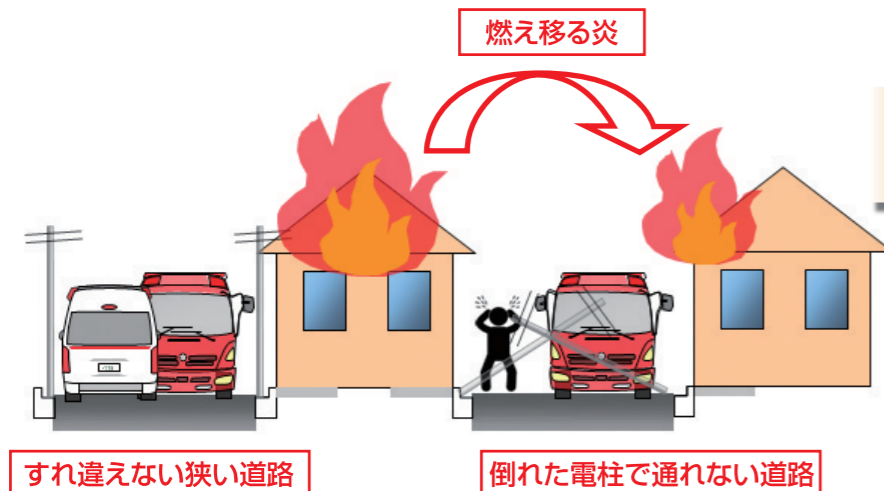
## 平成の「広小路」 ～命のみちで燃え広がらないまちをつくらう～

明暦の大火の後、江戸幕府は火災が燃え広がるのを防ぐため、道路を広げました。これが「広小路」です。



(資料提供:東京都江戸東京博物館 『江戸火事図巻』)

### 木造住宅が密集した地域で災害が起きたら



電柱のない  
広い道をつくと…

燃え広がらないまち  
救急車や消防車が通りやすい道  
人が避難できる道

江戸の町はたび重なる  
地震と火事に見舞われて  
きました。

- 1657年 明暦の大火
- 1772年 明和の大火
- 1806年 文化の大火
- 1855年 安政の大地震
- 1911年 吉原大火
- 1923年 関東大震災

そして平成…

電柱のない広い空  
広い道路で通りやすく  
みどり豊かなまち並みに



## 30th Anniversary



### 『コアラ来日30周年』

多摩動物公園 永田 典子

コアラが初めて日本に来たのは1984年。それから30年がたちました。

当初は東京都多摩動物公園と名古屋市東山動植物園、鹿児島市平川動物公園の3園にそれぞれオス2頭が送られました。多摩動物公園の2頭は、公募の結果「トムトム」(東京都の夢)、「タムタム」(多摩の夢)と命名されました。テレビや写真でしか見ることができなかったコアラへの期待がこめられていた名前だと思います。公開当時はコアラ館から正門まで長蛇の列ができる程でした。その後、国内では9か所の動物園で300頭以上のコアラが飼育されてきました。

コアラと言えば寝ている姿を思い浮かべることが多いのではないのでしょうか? コアラの飼育担当者になって一番の悩みは動いているところを観察する時間が少ないことです。1日に20時間もの睡眠を必要とするコアラがあまり寝ないとなると心配になりますが、動かないと健康なのか調子が悪いのか判断ができません。そのため、夜間の行動を録画して観察したり、ユーカリの採食量をチェックしたり、日々の細かな記録が大切になります。

また、コアラを飼育している動物園が毎年集まり、コアラ特有の病気や飼育管理方法、ユーカリの栽培等、情報交換のための会議を開催しています。さらに、単独の施設だけでは繁殖を維持するのが難しいため、動物園どうしで個体を積極的に移動させ、日本の動物園全体でコアラの飼育を長く続けていく努力をしています。

近年は飼育数が減少傾向にあり、ピーク時の半数ほどになっていますが、数を増やすべく、動物園どうしの連携を一層深め、飼育と繁殖に取り組んでいます。コアラの愛らしい姿が日本から消えないようにしていきたいです。

### ～動物園の“かお”～

多摩動物公園：オランウータン

平成26年6月19日にオスのオランウータンが誕生し、元気に成長中です。皆様からの投票により、「アビ」と命名されました。ぜひ会いに来てください!



撮影日 2014年6月25日